

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

埼玉県 推進校連絡会議 兼 第1回地域セミナー 報告書

2019（令和元）年6月19日（水）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」埼玉県推進校連絡会議兼第1回地域セミナーが開催されました。当日は、今年度の推進校の先生方5名に参加いただき、下記の要領で行われました。

【開催概要】

日時：2019（令和元）年6月19日（水）15時00分～16時30分

会場：埼玉県庁 衛生会館 531 会議室

主催：埼玉県教育委員会事務局、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：5名

プログラム：

15:00～15:05 開会挨拶
埼玉県教育局 教育総務部 教育政策課
課長 加藤 健次 氏

15:05～15:25 説明 令和元年度「県立学校オリンピック・パラリンピック教育推進事業」について
埼玉県教育局 教育総務部 教育政策課 政策担当
主査 中村 則裕 氏

15:25～15:55 講義 オリンピック・パラリンピック教育の推進について
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

15:55～16:15 各教育推進校の実施計画について
各推進校担当者

16:15～16:25 諸連絡

開会行事では、埼玉県教育局の加藤氏より挨拶がありました。2020年の東京大会まで残り1年に迫る中で、オリンピック・パラリンピック教育を通して、子どもたちがスポーツの価値や意義を再認識できることを期待している、と述べられました。

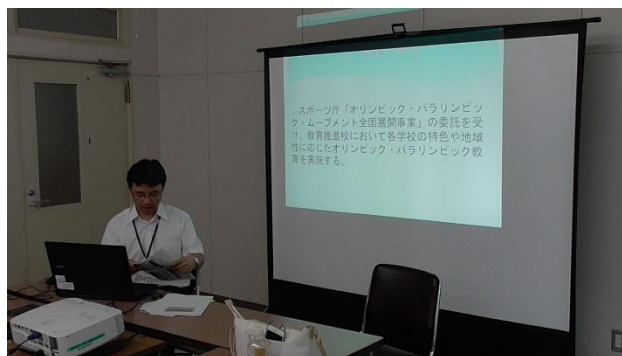
次に、埼玉県教育局の中村氏より、本事業の概要をご紹介いただきました。本事業の目的やスケジュールに加えて、実施計画の作成に向けて各校の特色を生かした無理のない取り組みを行ってほしい、と各推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育の方向性を示されました。

さらに、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの岡田研究員より、事業概要と実践事例の紹介がありました。冒頭で岡田研究員は、オリンピック・パラリンピック教育の重要性に関して、オリンピック・パラリンピック競技大会が先生方の記憶に残っているように、2020年の東京大会もまた子どもたちの記憶に残っていくであろうということ、そして、それゆえに東京大会がより深い学びの記憶として子どもたち

に残っていくためにもオリンピック・パラリンピック教育の実践が重要である、と述べられました。また、学校で無理のない取り組みを行うためのポイントとして、「既存の教育活動と関連づける」ことが大切であると述べられ、具体的な実践計画の立て方について説明されました。具体的には、各推進校の目標とオリンピック・パラリンピック教育の目標を関連付けたうえで、「オリンピック・パラリンピックについての学び」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」の2つの学びと教科等の学習を結び付けながら実践計画をたてていくという道筋も示されました。さらに、アスリートの方の講演の実施上の工夫や授業と関連づけた校種別の実践事例等についての情報提供もありました。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において体育科・保健体育科や社会科・地歴公民科、さらには総合的な学習の時間と関連づけた実践事例が紹介されました。また、より効果的なオリンピック・パラリンピック教育を実施するための資料として「オリンピック・パラリンピック教育指導参考資料」（スポーツ庁）や「I'mPOSSIBLE」だけでなく、「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター）や「WHO I AM」（WOWOW, IPC）といった映像資料も紹介されました。



加藤氏の挨拶



中村氏の説明



岡田研究員の講義



会場の様子

最後に、推進校の先生方から現段階での実践計画と事業を進めていくうえで難しさを感じていることについての意見交換が行われました。高等学校の先生方からは、アスリートの講演や実技指導を行う実践計画はもちろんのこと、年間を通したボッチャ体験やオリンピック・パラリンピックコーナーの設置等の計画をご紹介いただきました。特別支援学校の先生方からは、体育授業における年間を通したボッチャ、ブラインドサッカー、ゴールボール等のパラリンピック種目の体験や日本の伝統文化に関する学習の計画をご紹介いただきました。